

日本独文学会
秋季研究発表会

2024年10月19日（土）・10月20日（日）

第1日 午後2時20分より

第2日 午前10時より

会場 熊本大学黒髪北地区

文法学部本館・文法学部B講義棟

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40番1号

<https://www.kumamoto-u.ac.jp/campusjohou/access>

E-Mail: tagung2024kumamoto@jgg.jp

参加費

Peatixによる事前オンライン決済（10月11日まで）、もしくは当日払い
チケットページ <https://kumamoto2024.peatix.com/>

1. 研究発表会のみ

- ・常勤職の方：1,500円（事前オンライン決済）、2,000円（当日払い）
- ・それ以外の方：1,000円（事前オンライン決済）、1,500円（当日払い）

2. 研究発表会+懇親会

- ・常勤職の方：7,000円（事前オンライン決済）、8,000円（当日払い）
- ・それ以外の方：4,000円（事前オンライン決済）、5,000円（当日払い）

懇親会

※懇親会費のみの事前支払いはできません。

当日払いの方は、下記金額を受付にてお支払ください。

- ・常勤職の方：6,000円
- ・それ以外の方：3,500円

日本独文学会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-34-6 南大塚エースビル 603

Tel./Fax: 03-5950-1147

E-Mail（メールフォーム）：<http://www.jgg.jp/mailform/buero>

第1日 10月19日(土)

ドイツ語教育部会総会(13:15~14:00)

B3 講義室

開会の挨拶(14:20~14:30)

A会場(A1講義室)

西日本支部長 竹岡 健一
会 長 小黒 康正
熊本大学文学部長 伊藤 正彦

シンポジウム I (14:30~17:30)

A会場(A1講義室)

中東欧の見える境界、見えざる境界
——求心力と遠心力のはざままで——

司会：井上 暁子

1. Günter Grass und die Kaschuben/-ei. Im Spiel mit dem Gegen-Gedächtnis
Miłoslawa Borzyszkowska
2. ポーランド語圏における境界文学研究とその展開——シレジアの例を中心に
井上 暁子
3. ルーマニア領トランシルヴァニアにおけるナチズム受容と多民族共住の崩壊——エギナルト・シュラットナー『首を刎ねられた雄鶏』を踏まえて
藤田 恭子
4. ドイツ語／ソルブ語地域の言語景観における二言語の創造的仲介とその意義
木村護郎クリストフ

シンポジウム II (14:30~17:30)

B会場(B1講義室)

ドイツ語のノモスとテシス
——ドイツ語の「正しさ」と多様性——

司会：高橋 秀彰

1. メンテリーン聖書手書き写本における「旧表記」の「首尾一貫性」と「汎用性」
井出 万秀
2. 言語規範と言語使用——ベートーヴェンの筆談帳を資料として
佐藤 恵
3. 収束と分散から生成されるドイツ語発音のノモスとテシス：「正しい」ドイツ語発音とは
高橋 秀彰
4. Geschlechtergerechte Sprache? : gendern のノモス, テシス
田中 慎

口頭発表：文学、文化・社会 I (14:30~17:05)

C会場 (A2 講義室)

司会：中島 大輔・平松 智久

1. デア・シュトリッカー『花咲く谷のダニエル』における恋愛要素の欠落について
田中 一嘉
2. レッシング『ラオコーン』へのヘルダーによる応答
江口 大輔
3. ジャン・パウルと E. T. A. ホフマンにおけるフモールの相違について
進藤 良太
4. 身体運動が創り出す社会——J.C.F. グーツムーツから F.L. ヤーンへ
田口 武史

口頭発表：文学、文化・社会 II (14:30~17:05)

D会場 (A3 講義室)

司会：福元 圭太・葉柳 和則

1. „Ich hätte auch einen Blick auf Gottes Sterne werfen können [...]“. Astrologie, Esoterik und östliche Philosophie bei Robert Musil
Manuel Kraus
2. ハンナ・アーレントの『過去と未来の間で』第 1 章「伝統と近代」におけるニーチェの位置
栗山 次郎
3. エトガー・ヒルゼンラート『夜』——あるホロコースト小説の通俗性について
黒田 晴之

4. 再統一直後の時期における、オットー・エルンスト・レーマーのホロコースト否定論について
渡辺 将尚

口頭発表：語学、ドイツ語教育 I (14:30~17:30)

E 会場 (B2 講義室)

司会：嶋崎 啓・下寄 正利

1. アルザス語の不定冠詞と共起する[n]の生起要因に関する考察
作本 大祐
2. Beeinflussen die Normen der Deutschlehrenden die Selbstüberzeugungen der Studierenden?
Frank Nickel
3. ドイツ語の助数詞の機能の再検討
出島 恒太郎
4. 不在構文が持つ「不在性」とは？——場所表示と語用論的推論に焦点を当てて
伊藤 港
5. ドイツ語の受動文は事柄をどのように捉えるのか——コーパス調査に基づく考察
成田 節

ポスター発表 I (14:30~16:00)

(ポスターは期間中を通じて掲出されています)

F 会場 (受付付近)

言語学習と機械翻訳——ドイツ語学習者の機械翻訳使用実態に関する調査報告
磯部 美穂

ポスター発表 II (16:00~17:30)

(ポスターは期間中を通じて掲出されています)

F 会場 (受付付近)

学習者による文法説明動画の作成活動——行動志向・タスク志向の授業における文法知識の明示化
小林 大志

懇 親 会 (18:15~20:15)

会場：黒髪南地区 食堂 FORICO

会費：6,000 円 (学生・常勤職のない会員は 3,500 円)

※懇親会費の支払い方法については、プログラム 1 頁目を御確認ください。

第2日 10月20日(日)

シンポジウム III (10:00~13:00)

A会場 (A1講義室)

ノイモ・センブリントザームカイト
新感傷主義の可能性
——1800年前後のドイツにおける手紙文化——

司会：益 敏郎

1. すれ違う二人のホモ・センチメンタリス——あるいはヘルダーリンとズゼッテの書簡効果について 益 敏郎
2. ノヴァーリスにおける詩的なものとしての手紙 大澤 遼可
3. 「ホモ・センチメンタリス」の実践としての『ゴドヴィ』 高橋 優
4. 「感情」を通じた自己閉塞的な世界からの脱却——ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』における「書簡」の役割 橋本 紘樹
5. 書簡メディアと愛——ベッティナーナ・フォン・アルニム『ゲーテとある子供の往復書簡』をめぐって 白坂 彩乃

シンポジウム IV (10:00~13:00)

B会場 (B1講義室)

トーマス・マン『魔の山』
——刊行100年の「彼方」——

司会：小黒 康正

1. ペーペルコルン・コンプレックスにおける愛と裏切りの黙示録 鈴木 啓峻
2. 『魔の山』における有機体とフマニテートの関係 小野 二葉
3. 耳を聳する音——雪山、滝、そして戦場 坂本 彩希絵
4. 『魔の山』の認識論——戦間期ドイツにおける非合理性と真理 速水 淑子

口頭発表：文学、文化・社会 III (10:00~12:35)

C会場 (A2 講義室)

司会：富重 純子・村上 浩明

1. ポプロフスキーとクロップシュトック 関口 裕昭
2. イェリネク作/シュテーマン演出『ウルリケ・メアリー・ステュアート』
における哀悼劇および悲歌としての特性 高橋 慎也
3. 戦後復興の欺瞞と混乱——ニコラス・ボルン『二日目』における社会批判
と人物造形 杵渕 博樹
4. 『万葉集』のドイツ語訳の行方：藤代禎輔、カール・フローレンツ、ヤ
ン・ローデウエイク・ピアソン 馬場 大介

口頭発表：語学、ドイツ語教育 II (10:00~13:00)

D会場 (A3 講義室)

司会：森澤 万里子・Sven Holst

1. ヴィラモヴィアン語における人称代名詞の指示対象の自然性と文法性の不
一致現象に関する一考察——中性名詞 *mákja* との関連性 下村 恭太
2. 長・短か？ 張り・緩みか？——ドイツ語基本母音の非強勢位置での音節的
振舞いに着目して 藤縄 康弘
3. *gut* と *schön* の評価要因の相違について 信國 萌
4. *deutsch* なる語の起源についての再考察 荻野 蔵平
5. *Didaktisierung von Mehrwortausdrücken in der Fremdsprachenvermittlung Deutsch
als Fremdsprache* Maria Gabriela Schmidt

ブース発表 I (10:00~11:30)

(ブース発表は途中での出入り自由です)

E会場 (B2 講義室)

日本とドイツにおける文化多様性について——無形文化遺産をもとに

金城ハウプトマン朱美

ブース発表 II (11:30～13:00)

(ブース発表は途中での出入り自由です)

E会場 (B2 講義室)

ドイツ語現代詩の朗読の分析：音声学と文学研究からのアプローチ

生駒 美喜・小野寺 賢一

閉会の挨拶 (13:00～13:05)

A会場 (A1 講義室)

益 敏郎

研究発表会期間中、上記のプログラムに加えて、書店・出版社等による書籍展示が行われます。